

平成 29年6月8日(木)
国土交通省 関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

記者発表資料

国営昭和記念公園で健康増進！
公園散策で約2億円の高齢者医療費抑制効果。

【調査結果概要】

平成28年11月の5日間に国営昭和記念公園に来園された高齢者(65歳以上)を対象に、歩数計を用いた歩行量(歩数)調査を行い、医療費抑制効果を試算しました。

対象者(459名)の平均的な滞在時間(約3時間)中に、男性では約 6,600 歩、女性では約 6,100 歩の歩行量があることがわかりました。

以上のことから、国営昭和記念公園を散策した運動量について、一定の仮定条件の下で高齢者医療費抑制効果に換算したところ、「年間で約2億円の効果がある」という試算結果となりました。

(なお、実際に歩行による健康増進効果を得るためには、一定量の歩行の習慣化が必要となります。)

【今後の取組】

今回得られた歩行量(歩行数)と滞在時間との関係や近隣地域との連携により、更なるデータ収集・分析を行うことで、より有効な数値の実証を検討していきます。

また、公園内における健康増進のための運動イベント(パークフェットネス等)をより積極的に推進するなど、地域の健康寿命の延伸、医療費抑制等に貢献していきます。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・都庁記者クラブ・立川市政記者クラブ

問い合わせ先

国営昭和記念公園事務所 調査設計課長 しもで だいすけ 下出 大介
電話 042-524-1089(調査設計課) FAX 042-526-1466

【調査の背景】

近年、超高齢化社会への対応等として、運動による健康寿命の延伸、医療費削減が求められています。厚生労働省では、「健康日本21(第二次)」において、日常生活における歩数を平成 34 年度までに約1,500歩増加させることを目指し、65歳以上では男性 7,000 歩、女性 6,000 歩を目標として掲げています。

また、国土交通省では、まちづくりの観点から健康増進効果への取組を支援しており、「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量(歩数)調査のガイドライン」(平成 29 年3月)を策定・公表しています。

そこで、平成28年11月の5日間に国営昭和記念公園に来園された高齢者(65歳以上)を無作為に抽出し、歩数計を用いた歩行数実測調査を行い、公園の持つストック効果として医療費抑制効果を算出することとしました。

【調査方法】

下記の調査日において、国営昭和記念公園を訪れた65歳以上の利用者を実験的に抽出し、公園各ゲートにおいて歩数計を装着していただき、退園の際に歩数計を回収するとともに、滞在時間等を把握するための簡易なアンケートを実施しました。

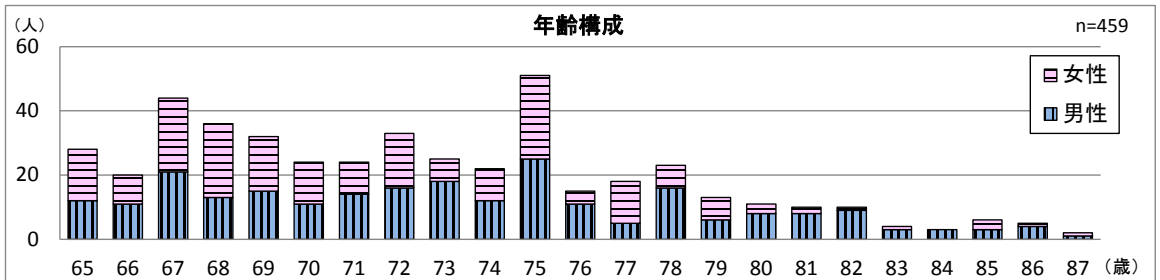
調査日:平成28年11月の土日を含む5日間(12日(土)、14日(月)、15日(火)、18日(金)、20日(日))

【調査結果概要】

有効データ数:459名(休日181名、平日278名)(休日と平日のデータに統計的な有意差は認められない)

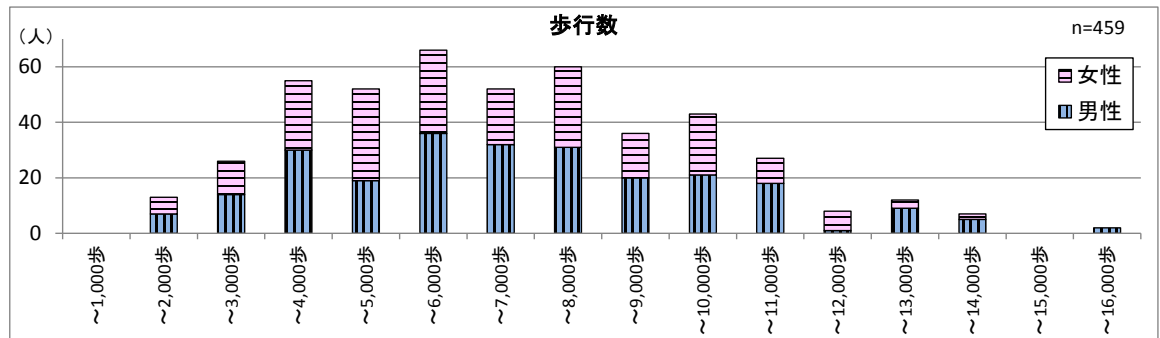
性別構成:男性245名(53.4%)、女性214名(46.6%)

年齢構成:65歳以上(平均年齢73歳、最大87歳)

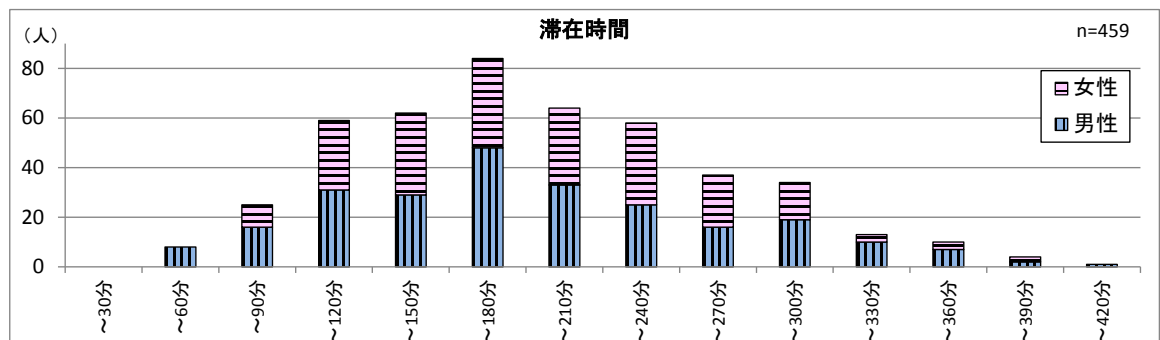


歩行数:男性(平均値 6,764 歩、中央値 6,654 歩、最大値 15,922 歩、最小値 1,345 歩)

女性(平均値 6,417 歩、中央値 6,138 歩、最大値 13,798 歩、最小値 1,062 歩)



滞在時間:平均約3時間、最長約7時間、最短約30分



【医療費抑制効果の算出方法】

男性 : $0.065\text{円}/\text{歩}\cdot\text{人}\cdot\text{日}^{\ast 1} \times 2,235\text{歩}^{\ast 2} \times 60\text{万人}/\text{年}^{\ast 3}$
=約0.9億円

女性 : $0.065\text{円}/\text{歩}\cdot\text{人}\cdot\text{日}^{\ast 1} \times 2,714\text{歩}^{\ast 2} \times 60\text{万人}/\text{年}^{\ast 3}$
=約1.1億円

合計 : 0.9億円+1.1億円 = 約2億円

(なお、本来は特定の人物が一定量の歩行を習慣化する必要がありますが、今回の計算では不特定多数の利用者が混在している条件であり、個人の歩行の継続性等の観点は考慮していません。)

※1) 医療費抑制効果の原単位

国土交通省の策定した「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量(歩数)調査のガイドライン」(国土交通省)IV2.(3)によれば、既往の調査・研究の結果から、1日1歩あたりの医療費抑制効果を0.065~0.072円/歩/日と試算しています。

なお、今回は「0.065円/歩/日」を採用し計算を行っています。

※2) 1人あたりの医療費抑制に寄与した歩行数

国営昭和記念公園内に滞在していた間の65歳以上の歩行数(中央値)は、男性で6,654歩、女性で6,138歩でした。

一方、全国の65歳以上の1日(終日)の平均歩行数は、「国民健康・栄養調査(平成27年)」(厚生労働省)の結果によれば、男性で5,919歩、女性で4,924歩となっています。この結果は、外出時のみならず自宅内の歩行量(歩数)も含まれていることから、自宅内歩行量(歩数)として、1,500歩を減じて、外出時のみの歩数に補正しています。なお、「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量(歩数)調査ガイドライン」によれば、既往の調査・研究の結果から、自宅内歩行量については、概ね約1,500歩(中央値)計測されることが把握されています。

以上のことから、国営昭和記念公園内での歩行数は、全国の1日平均(外出時)と比較して、男性は2,235(6,654-(5,919-1,500))歩、女性は2,714(6,138-(4,924-1,500))歩多くなっており、この歩行数が医療費抑制に寄与したと仮定して計算を行っています。

※3) 国営昭和記念公園の65歳以上の年間入園者数

平成28年度の国営昭和記念公園入園者数は約400万人でした。

「H28昭和・武蔵・有明公園運営維持管理に関するモニタリング調査他業務」(国営昭和記念公園事務所)によれば、65歳以上の入園者は、全体の入園者の約3割を占めることから、65歳以上は年間約120万人入園していると推計しています。また、男女比については、同じであると想定しています。

以上のことから、国営昭和記念公園を利用している65歳以上の男性は約60万人/年、女性は約60万人/年と仮定して計算を行っています。

【参考資料】

「国民健康・栄養調査(平成27年)」(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html

「健康日本21(第二次)」(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html

「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量(歩数)調査ガイドライン」(国土交通省)

http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000055.html